

もくもくプロジェクト見学会ブログ

デザイン学科1年 N.F.

はじめに天竜の森林へ行き、実際に林の中を歩きながらお話を伺いました。そこで写真のような幹が捻じれている木を見ました。木には裏表があり、間違えて植えてしまうと捻じれてしまうとのことでした。木の価値を高めるための工夫は植える瞬間から始まっていると感じました。



昼過ぎに、丸太市場に行きました。ここでは、杉やヒノキなどの丸太を直径別に36種類に選別し、販売していました。主に木の価値がどのような要因で変動するのかを知りました。一番驚いた要因は年輪の幅です。年輪の幅は成長スピードによって変化します。年輪の幅が狭いほどゆっくり時間をかけて育てられたとみなされ、価値が高まると仰っていました。



次に、製材所を見学しました。様々な大きさに切り分けられた木材が、きれいに並べられていました。乾燥させる前の木材は乾燥させた後の木材を比べて体感2倍以上も重さに差がありました。



この一日の体験を経て、天竜杉がどのように育てられ、どのように販売されていくのかを木が製材になっていく流れに沿って学ぶことができました。学校の調べ学習では聞くことのできない生産者の方々の生の声を聞き、実際の現場を拝見できたと思います。また、一つの木にかかる莫大な時間に私自身非常に驚きました。堂々とした木に育つまで何十年もの時間がかかり、素人の私からみても途方もない苦勞です。それでも子や孫の代のために森林を整備し、今ある森林を次の世代に残そうとする熱意を、もっと多くの人に知ってもらいたいです。